

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

道内過去最多43校

本年度
実践校 4校を2次認定へ

北海道はまた全国最多。2006年度のNIE実践校は、7月中旬に開かれる日本新聞教育文化財団のNIE委員会第2次認定が決まり、道内では第2次認定で4校が追加されることが内定した。先に決定した第1次認定の39校と合わせ43校に増え、05年度に引き続き全国最多となる。

第2次認定の推薦校は、財団認定の3校(札幌平岡公園小、網走小、浦河高)と北海道NIE推進協議会独自認定の1校(幕別札内北小)。

本年度の財団認定校は、全国で500校を目指したが、このほど締め切った第2次認定の推薦が31校で、第1次認定の45校と合わせても490校にとどまったため、推薦校全校を認定することにした。

1次、2次合わせた財団認定校は、都道府県別では、北海道の35校が最

今年3月までの2年間、昼間は国語教師、また、クラス担任として教壇に立ち、勤務終了後や休日は、大学院生として英語教育について学ぶ側に立つという生活をしてきました。

数年前に受講した米国の大学のセミナーでは、常に意見を出すことを要求され、講師の側から一方的に「教えられる」ということはありませんでした。



新聞使い「考える」授業

函館水産高教諭

山本 かおり

学習者中心の教授法を体験し、「日本へ帰ったら生徒たちに考える機会を多く与え、学習することが楽しいと感じられる授業をしたい」と痛感しました。

新聞は考える機会を与える

自分の考えを発言する姿が印象的でした。

ワシントン・ポスト社では新聞社の教育現場への行き届いた支援の実情に驚きました。移民の多い米国では英語を第二言語として学習する子供た

「verticaliser」紙の号外第1面を教材化しました。長期乗船実習を控えた本校3年生は寄港地ホノルル上陸を楽しみにしていて、この記事は興味深いものだったようです。

授業後のアンケートには「教

進学のための文章指導の他、学年末には1人1紙ずつの新聞作成の準備も少しずつしていくつもりです。卒業時、全員に高校生活の集大成となる「新聞集」を手にして欲しい、というのが今の願いです。

▼経済の成長、科学の発達で生活が楽になったが多少生活が不便でも日本人の美徳を再確認し、先達の残してくれた精神文化の復活を望む。(高)



5月27日に札幌市内で開いた同協議会の定時年次総会の席上、山田家正会長が第1次認定の道内実践校のうち新規校16校の代表者に認定書を手渡し「写真」を激励した。

道内実践校の校種別内訳は小学校14校、中学校17校、中高一貫校2校、高校10校。

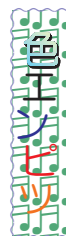
地区別にみると、市部では網走市内で初めて実践校(網走小)が認定されるほか、日高管内では初めて高校2校(静内農業高、浦河高)が実践校の仲間入りを果たす。

精神文化の復活

トリノ冬季五輪のカーリング代表選手、小野寺歩さんからいい話を聞いた。遠征先からの便りは、両親よりまず祖母宛。子供の時におんぶなどで世話になったので便りを出すのは当たり前。今の自分はいくら前のお世話になり成長してきた。今度は自分がおんぶしてあげる番だという。最近、凶悪な犯罪が続いて起きている。特に子供の命を殺める事件は残酷である。秋田県で女児を亡くした悲劇の母が、隣家の小1の男児を殺害したと聞き愕然とした。社会の閉塞感、ストレス、怨念に耐え切れず人の命を奪い我を失ったというが、昔から誰かが親から「殺してはならない、嘘をついてはならない、盗んではならない」と場面を通して人間の生き方のイロハを厳しく教けられてきたはずだ。

▼ラフカディオ・ハーンは評論「神国日本」に「日本人は世界一犯罪者の少ない美しい心をもった国民である」と称賛したが今彼が居る社会環境を知ったら驚くに違いない。

▼経済の成長、科学の発達で生活が楽になったが多少生活が不便でも日本人の美徳を再確認し、先達の残してくれた精神文化の復活を望む。(高)



道NIE推進協総会

学習の枠超え新聞活用

実践発表で活発な意見

北海道NIE推進協議会の2006年度総会が5月27日、北海道新聞社で開かれ、実践発表では、江別市立いずみ野小の柏木真紀子教諭と帯広市立帯広第五中の森田昌宏教諭が新聞活用授業の具体的な展開について報告し、参加者の熱い視線を集めた。

総会には、本年度のNIE実践校の代表者のほか、道教委の辻敏裕生涯学習部高校教育課長、菅原雅之高校教育課指導主事、札幌市教委の工藤真嗣学校教育部指導室指導主事が出席した。両教諭の実践発表は、



認定書の交付、議案審議に続いて行われた。柏木教諭は、児童、生徒を対象とした新聞の投稿欄への作品投稿を指導しており、挑戦意欲を高めた。

また、「新聞は(活字を通して)好きな時に好きな情報を取捨選択して入手でき、(投稿欄などで)自分の意見も発信できる」と利点を挙げ、「こうした新聞活用のメリットは、教科学習にとどまらず、特別活動などを含めて全教育活動に位置付けることが可能になる」と話した。

一方、森田教諭は、05年度のNIE実践校としての取り組みを分かちあうと述べ、報告を締めくくった。

このあと、両教諭の報告について、参加者の質問、意見が相次ぎ、活発な発表会となった。

現力を高め、社会への関心を持たせることができた」と報告した。

具体的な学習成果としては「新聞をグループで作ることにより、仲間意識が生まれた」「友人の考えを聞くことにより、社会的対象に対する自分の考えを深めることができた」「記事の要約を書くことができた」「読み込むことができた」などの点を挙げ、「新聞作りや新聞活用で培った力や他の分野でどう活かすのか、伸ばしていくかが今後の課題になる」などと述べ、報告を締めくくった。

NIE実践奮闘記

NIE実践校の認定を受けて1年目が終わり、2年目の実践となった。2年目とはいえ、昨年の私の実践は必ずしも自慢のできるようなものではなく、自分自身でも消化不良のままだと感じてしまった感があり、今年こそはと意気込んでいる今日この頃である。

朝刊からという欄を設け、新聞を読まなければならぬという意識も高めてきた。また、夏休み、冬休みの課題で新聞記事をストックし、意見文を書く実践を続けた。

あくまで教師側から与えられたものであり、自主的に自分から読んだものではないため、本当の意味で新聞を読んでいるわけではない気がする。学級日誌の「今日の朝刊から」という欄にしても、「読んでいません」という声もたまにありました。

出前講座で関心高める



寿都高教諭 藪内 敬志

意見文に関しては、何年間か行ってきた結果、また現在も継続している中で、それなりに生徒も自分の意見というものをもち、書けるようになってはきており、一つの成果にはなっている。しかし、それは

にあっては、関心が高まる。どうすればもっと生徒が新聞に興味を持ち、読むようになるのか、それを考えていたとき、前任校の同僚と話す機会があり、このNIEの実践を聞いたのである。実践校として認定され、実際に6紙の

でいくきっかけはできた。あとはそれを実践していく我々教師がどう新聞を使っていくかである。他教科との連携や朝読書の時間に新聞を活用し今提供されている新聞を充分に活かしていきたいと考えている。せっかくの機会を無駄にしないために。

北海道NIE推進協議会 06年度役員 (6月1日現在)

(敬称略)

顧問	吉田 洋一	北海道教育委員会教育長
	松平 英明	札幌市教育委員会教育長
会長	山田 家正	小樽商科大学名誉教授
副会長	穂積 邦彦	北海道教育委員会生涯学習部学校教育局長
	北原 敬文	札幌市教育委員会学校教育部長
	日下部 憲一	北海道NIE研究会会長 (札幌市立米里中学校)
	松岡 正行	十勝新聞教育研究会会長 (幕別町立明倫小学校)
幹事	村田 正敏	北海道新聞社取締役経営企画室長
	長原 敏夫	読売新聞社北海道支社編集部次長
	對馬 好一	産経新聞社札幌支局長
	小栗 正徳	時事通信社札幌支社長
	藤井 正友	北海道新聞社NIE推進センター長
監事	伊藤 裕章	朝日新聞社北海道支社編集総務兼報道部長
	山田 茂樹	苫小牧民報社取締役札幌支社長

「人間力」育てるために

十勝新聞教育研究会会長 松岡 正行

N I E日常実践心がけ

十勝管内の先生方で組織している北海道十勝新聞教育研究会は、1990年に設立以来、「授業」を中核に据えながら研究を重ねてきました。その地道な取り組みが評価され、95年、2005年と2度にわたり、全国新聞教育研究会の全国大会を帯広市で開催したところ

です。昨年夏の全国大会では小中学校合わせて6校の授業を公開しました。全校児童が参加した小規模校の授業が大いに注目されました。本研究会の主な活動内容は、研究大会の開催、全十勝小学校壁新聞コン



帯広緑丘小6年生の公開授業
(昨年夏の全国新聞教育大会)

クール、小中学校学校新聞コンクールなどの共催、N I E十勝・帯広セミナーの共催などです。各種新聞コンクールへ参加する学校数や応募数が増える傾向にあり、うれしく思っています。

現在、小中学校を中心

に58人を数えています。このほか、各種の催しにはO Bの方々が参加し、全国大会を開いたときはパソコン編集の速報ニュースを発刊していた

です。また「いつでも、どこでも、だれでもできる新聞教育」を目指す本研究

会は、これまでの積み重ねを大事にしながら、1人でも多くの先生方にひとつでも多くの新聞教育の「よさ」を提供しようと取り組んでいます。

特に、日常実践を大事にしているだけに、研究大会やN I Eセミナーを軸にP Rしているところ

です。さらに本年度は、夏休みをメドにホームページを立ち上げ、情報提供を図っていく計画で

は、これまでの積み重ねを大事にしながら、1人でも多くの先生方にひとつでも多くの新聞教育の「よさ」を提供しようと取り組んでいます。



NEWS な時間

＝道教育大付属札幌中1年生

8月18日に交流会

道N I E研究会

北海道N I E研究会(会長 日下部憲一札幌米里中学校長)は、当協議会と共催して、本年度の第1回実践交流会を8月18日(金)午後、北海道新聞社N I Eプラザで開

く。N I Eに取り組む実践リーダーの育成を兼ねた催しで、昨年9月以降、通算3回目の交流会となる。今回は「夏季研修会」と銘打ち、実践発表のほか、N I E全国大会(7月末、水戸市)の報告、新聞記者の体験談披露などを予定している。

さて、今、子どもたちを取り巻く社会環境は決してよいとは言えず、児童虐待、殺害、不審者に関連した事件など、子どもが犠牲になる事件の続発は、きわめて大きな社会的危機を迎えていると言えます。このような現実を直視し、その原因などを考え、その情報処理能力や国語力・社会力などを培うN I E活動は一定の役割を果たせるものと思えます。これからの社会をしっかりと生き抜いていく人間性豊かな「人間力」を育てるためにも、N I Eの活動を充実させたいものです。

「わがまち新聞」今年も募集

応募の締め切りは9月8日(金)で、9月下旬に審査を行い、10月初めに北海道コンクールの審査結果を発表する。全国コンクールの審査は同月下旬に行い、入賞作品を決め、11月上旬の「N I E週間」で表彰する。全国コンクールでは、最優秀賞のほか、小・中・高校の部門ごとに優秀賞、団体賞を選ぶ。作品の大きさはB4判以上。手書きでもパソコンを使ってもよい。氏名、学校名と学年、住所、電話番号を明記する。応募ならびに問い合わせ先は当協議会(札幌市中央区大通西3、北海道新聞社内)011-210-5802。

8月8日締め

りパワフル全開!! 夕張市立清水沢小 小野真如月、島谷祐希さん)に輝き、北海道の新聞づくりが全国から注目された。

05年度に創設された「N I E週間」の関連事業として初めて実施した小・中・高生の「わがまち新聞コンクール」は、06年度も継続して行うことになり、作品を募集している。

地域の話題や名物、名所、人物などをテーマにし、個人、グループで作成し、学校単位でも応募できる。

道内の報道各社で組織している北海道N I E推進協議会が主催する北海道コンクール(10月)と日本新聞教育文化財団が主催する全国コンクール(11月)に分かれる。北海道コンクールの優秀作品を全国コンクールに推薦する。

地区セミナー 来月スタート

1日函館、13日釧路

当協議会が主催する本年度のN I E地区セミナーは7月1日の函館セミナーでスタートを切り、同月13日には釧路セミナーが続く。

年内は、このあと、10月12日に初開催となる苫小牧・日高地区をはじめ、北見、岩見沢、旭川での開催を予定している。

函館、釧路の両セミナーは、02年度から毎年継続して行っており、それぞれ5回目。釧路セミナーは、地区セミナーで

は初めて公開授業を取り入れたほか、道教育大釧路校の学生が参加する。【第5回函館セミナー】▽とき 7月1日(土)午後1時から▽会場 北海道新聞函館支社3階会議室(函館市五稜郭町31)▽実践報告 石井望・函館市立中部小教諭、金子賢・同級法華中教諭、高瀬容子・七飯高教諭

家庭 地域でも出前講座

年間60回 社会全体への浸透期待



新聞社の役割と責任も重くなる。当座、出前授業(講座)に力を入れており、社内にNIE推進室を新設した昨年春から今年6月までの実施回数は60回を超えた。「社会に目を向けさせるきっかけづくり」「小論文への活用」などテーマは多彩だ。

新聞に興味を示したとしても、家で親がとぼけ顔なら、せっかくの芽生えもしぼむ。NIEの浸透・継続のカギは、実は家庭が握っている。何より1人で30〜40人を相手にする教師に比べ、親子どもに一对一で向き合える点が大きい。最近、授業参観やPTA活動に親子NIEを組み入れるケースがみられる。今春、天草のある中学校で、卒業式のあと、恒例の謝恩会をとり

熊本はNIEの後進県? 都道府県単位のNIE推進協議会の結成順で言えば、確かにそうである。発足はちょうど1年前の05年6月。北海道に遅れること9年、全国ではしんがりの43番目。新米組織として試行錯誤の連続だが、幸い、行政側の理解に支えられ、実践校も、本年度は特別枠を活用し、計12校になる見通しだ。

質の充実も追求

数をこなすだけでなく、「なんだ、この程度の内容か」と笑われないような質の充実も求められる。

熊本日日新聞

熊本県の地元紙、熊本日日新聞社が「出前講座」に力を入れている。学校はもとより、家庭、地域へと足を伸ばしている。同社のNIEへの取り組みを寄稿してもらった。

いま
熊本で

新聞閲読は一日26分

05年全国調査

日本新聞教育文化財団がこのほどまとめた「全国メディア接触調査」(2005年)によると、20歳代の18・6%は、新聞を全く読まず、その割合が急増したことが分かった。昨年10月に日本新聞協会が全国6千人(15歳以上・69歳以下)を対象にアンケート調査し、34人から回答を得た。この調査は01年から隔年で実施。新聞、テレビ、ラジオ、雑誌のそれぞれ、新聞の閲読については、05年は、全体の68・1%

20代の不読急増

が「毎日読んでいる」と答えた。年代別にみると60歳代が87・9%と最も高く、15〜19歳が最低の33・6%だった。「毎日読んでいる」全体

編集後記

〇…NIE(教育に新聞を)はどちらかというと、送り手である新聞社側の発想だ。日常の学習に生きた教材としての新聞記事を大いに使ってほしい、との期待感が詰まっている。

〇…だが、最近、教育現場の先生たちからは「授業に活用できる記事は意外に少ない」との声が聞かれる。切り抜きしづらいレイアウトなども支障になっている、という。

〇…7月末に水戸市で開かれる今年のNIE全国大会では、新聞社の役割を話し合うパネルディスカッションが初めて組まれた。「子どもたちに役に立つ記事とは何か」が議論される。

〇…NIEは、児童、生徒に受け入れられて初めて成り立つ。情報の送り手には、学習意欲をどう喚起し、「考える力」を培っていくか—といった観点と紙面上の創意工夫が求められる。(藤)



誕生から現代まで新聞の歴史一冊に
日本新聞博物館(横浜市中区日本11)はこのほど、かわら版から現代の新聞までの歴史をまとめた小冊子「新聞のあゆみ」(明治から現代まで)を写真Ⅱを刊行した。春原昭彦・上智大名誉教授

お知らせ

の割合は01年69・6%、03年69・8%と微減傾向を示している。新聞を読んでいる人の1日の平均閲読時間(平日、朝刊のみ)は、全体で26・0分で、01年、03年と比べ、ほとんど変わらなかった。15〜19歳の年代が増すことに多くな

り、60歳代は38・1分となっている。一方、「全く読んでいない」は、全体で7・9%となり、01年の5・0%、03年の5・9%と比べると、増加傾向が顕著だ。中でも20歳代は01年の11・8%、03年の11・3%と比較すると、大幅に増えた。

が同館で行った講演の内容を加筆、修正し、同館の収蔵資料などを豊富なカット写真に使って新聞の歴史を分かりやすくまとめている。内容は「新聞の誕生」「近代新聞の成立」「言論・報道機関の確立」「新聞統制への道」「戦後の新聞のあゆみ」などで、読み物としてだけでなく、NIE活動はもとより、新聞社見学の補助資料など幅広い活用ができる。A4判、41ページで、定価は500円。日本教育文化財団(045-661-2032)で取り扱っている。